

趣向をこらした納涼大会

会場は変ったが大成功

八月七・八・九日、例年青少年広場で行われていた盆踊りが、今年には香川小学校の校庭で、納涼大会として開かれました。

盆踊り、ジャズダンス、映画、仮装と、もりだくさんのメニューで、大人も子供も楽しめる企画でした。

七・八日は、火災報知器が作動したり、八日は台風余波で、天候が危ぶまれましたが、幸い晴れて、好評のうちに終わりました。

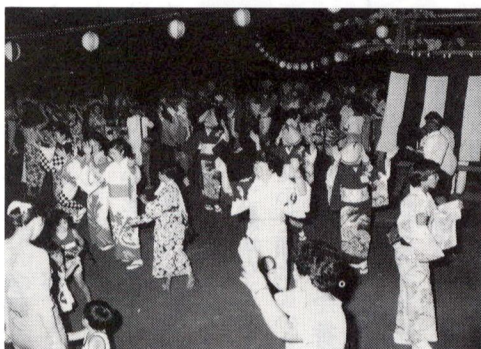
参加者に感想や反省などを伺ってみました。

☆地域活性化のために、同じ場所だけでなく、いろいろな所で催すこともよいのではないかと。また小さな子供を集めるには学校が手頃である。これからは皆さんの意見をとりいれて、場所の設定をし

ていきたい。(文化厚生)

☆一定の場所にきめないで何箇所かを廻るようにすると、その近辺の人たちの参加もえられて参加者がふえるのでは。(老人会)

☆お店が出ていなくて淋しい。子供会などで綿菓子など売ってくれ



みんなで踊れば楽しいね

ると嬉しい。(幼児をつれたお母さん)

☆道がこわくなって、小学校の方がいい。(小学生A)

☆友だちがいっぱいこれるから、小学校の方がいい。(同、B)

☆北側の校舎が真暗だったが、事故がなくてよかった。子供も多く集まるので、模擬店があった方が会場も明るくなる。(警備係)

☆七十歳でよい思い出になった。原のはずれで今迄盆踊りは関係なかったが、市営住宅で里帰りの人

納涼大会を終えて

文化厚生委員長 杉井初代

きびしい暑さも一段落し、しのぎよい季節となつてまいりました。八月七日・九日の三日間にわたり納涼大会が香川小学校で催されました。昨年までは第一青少年広場を会場としておりましたが、今年初めて小学校の校庭をお借りしました。会場を借りるにあたり、自治会長さんや町内会長さん一

緒に、挨拶まわりをしていただきました。また婦人会、消防団、商興会、体振、推進協、祭ばやしなど、諸団体の方々には、会場設営などの準備に協力していただき、ありがとうございました。

今年盆踊りの他に、内容に趣向をこらし、一日目はジャズダンスと盆踊り、二日目はアニメ上映と盆踊り、三日目は仮装大会と盆踊りが行われました。

当初は雨天が心配されましたが幸いにも好天に恵まれ、予定通り無事終ることができました。

皆様のご理解、ご協力により、納涼大会が盛大に行われましたこと救済され、無事でした。

火事は最初の五分が勝負で、15分たつたら手のつけようもなく、類焼防止しか方法はないそうです。独居老人の調査は、民生委員が調査してありますが、いざという時には、ご近所の方々の協力が望まれます。平素から、隣り近所の方たちとは、仲よくくらしたいものです。

火事は最初五分が勝負

5分が勝負

先日玄圃寺北側のお宅で火事がありました。幸い寺の工事をしていた人の早い発見でボヤですみました。また独り暮らしの足の不自由なお婆さんも、職人さんたちに

す。関係者の熱意と努力に対して感謝するとともに、今後ともがんばって下さい。(観客)

☆例年になくすばらしかった。天候にも恵まれ、りっぱな会ができた。お礼をいいます。(会長)

とを、文化厚生一同心より喜んでおります。いろいろご不便などあったかと存じますが、今後はそうした点のないよう、改めていきたいと反省しております。

来年度も今年以上、にぎやかに楽しくやりたいと思えます。ありがとうございました。

敬老の集いに
ご参加を

65才以上は896人

本年度は敬老の集いを10月4日(日)、香川小学校体育館で午前10時から行います。舞踊、フォークダンス、マジックショー、フォークソングなどがあります。

皆さまのお越しを楽しみに待っています。

九月十五日は、敬老の日として各地でいろいろの催しが開かれた。人生経験豊かな方たちを大切にし尊敬する気持は、いつまでも持ちたいものです。香川で65才以上の方は896人、独居は67人、ねたきりの方は13人いらっしゃいます。

(91年10月1日現在)

諏訪稻荷神社の 祭典を執り行う

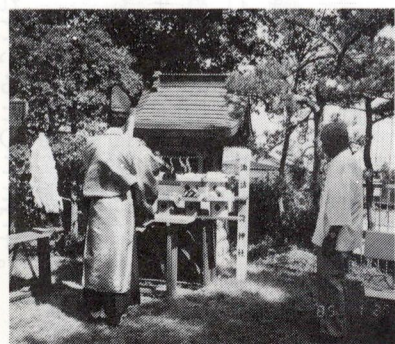
諏訪稻荷神社の祭典が九月三日(木)、午前十時から行われました。この神社は、香川住民の無病息災を願って、氏子の方々の浄財で建設され、平成元年九月三日に、

計報

七月七日以降九月十四日までに次の方が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

原 綾子様	71才	7月7日
力 はな様	71才	7月11日
松崎 明様	38才	7月12日
石井房吉様	73才	7月15日
三橋幸次様	50才	7月26日
渡部勝栄様	80才	7月26日
中村ちどり様	75才	8月21日
鈴木次枝様	79才	8月29日
松本恭明様	55才	9月4日
岩片真美子様	63才	9月14日

正遷宮祭を行いました。以来この日を祭典の日として、儀式が行われています。今年も神前に海山の幸をお供えし、崇敬者や神社関係者などの方が参詣されました。



諏訪稻荷神社の祭典

防災準備は万全に

石井 栄

報道機関でご承知の通りですが、地震大国日本でありながら、平和にひたって、災害を忘れがちでいるのではなからうか。

富士山も死火山といわれていたが、学者は噴火をすると言っている。噴火したら、火山灰は御殿場で30cm、湘南で20cm、東京では5cmの灰が積もるといわれている。

香川の南に富士塚の碑が建っている。火山灰の盛土が、5mも山になつていたことを思い出す。天災には勝てないと、改めて恐怖を感じる。

さて、地震が発生したら、報道では家屋は30%が倒壊するといっている。家屋・電柱が倒れ、橋は折れ、道路は裂け、交通と電気が遮断されたら、一瞬のうちに生活はパニックになるのは必至だ。

そこで水と食糧は確保しなければならぬが、どうだろうか。

水は井戸水に頼る他ないと思う。自治会として非常の場合、何かの手段をとらなければと、ひとこと提言したい。

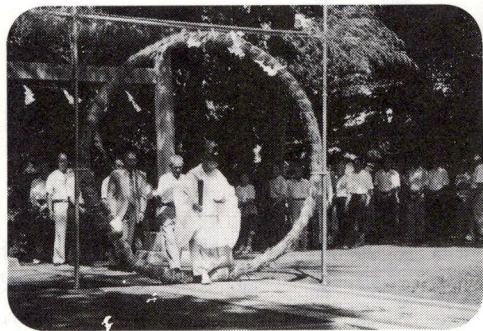
諏訪 夏越祭行われる

茅の輪くぐりでお祓い

諏訪神社では毎年八月十四日に夏越祭が行われます。

これは一年の前半の無事を感謝し、後半の無病息災を祈って行われるものです。今年も高台の神社の蟬しぐれの中で行われました。直径三mほどの茅の輪を8の字を描くように三回くぐりぬけ神殿に入っておはらいをして頂きました。この茅の輪は、前日に神社役員によつて作られたものです。

今年はゴルフ場の山から本茅（昔はちがや）をトラック一杯刈つてきて、真中の葉だけに作り、それをパイプ（昔は竹）にまきつけて



神主さんを先頭に茅の輪をくぐる人たち

緑の輪にします。さらに縄をまき支柱にくくりつけます。こんな手

大震災で酒六百石を流失

数年間は畑の作物が無収穫

昔話の第二回目は、北町にお住居の熊澤酒造の御当主、熊澤茂吉さん（昭和五年御尊父逝去により信男を改め茂吉襲名）に伺いました。テニスやスイミングクラブ他、いろいろ経営なさつて、ご多忙でいらつしやいます。余暇に陶芸をなさり、すばらしい作品がたくさん飾つてあります。

明治38年12月18日生まれ。87才。四時に起床、ジョギングをなさつたり、草むしりをしておられます。

小学生の頃の思い出

本校の運動会では障害物競走や二人三脚、かけっこなどをした。6・7才の時だったと思うが、天気の良い夜、やまく（熊沢市朗さん宅）で遊んでいる時に、突然提灯行列が現われ、東の方へ消えて行った。周りに家もなく、人通りもないのでよく見えた。阿諏訪徹さん所の吾妻山の所を狐が行列して行った。狐の嫁入りである。小学校の3・4年頃、竜巻があ

中学生の頃

県立厚木中学（現在の厚木高校）へ通った。自転車に乗る稽古を一週間位したが、乗れるようになるまで、熊沢時蔵さん（熊沢恒雄さ

間ひまかかることが、戦後昭和二十七年から、戦没者慰霊もかねて行われてきました。

この近辺では十間坂の神社がやるぐらいで、他はやられていないそうです。世話人さんのご苦労に感謝しながら、木洩れ日の石段を下つてきました。（池田）

物知りコーナー

心太と書いて

トコロテンと読む

この夏、中学二年の宿題のテキストに、夏の生活に関する言葉として表記の漢字の読みがなふりの



陶芸作品のならばお庭で熊沢茂吉さん

ん祖父）が手伝つてくれた。自転車で厚木まで通うのに、片道一時間半の道のりは辛かった。朝は北風、帰りは南風で、風に向つて走るので、砂利道だったのでたいへんだった。寺尾の白井静三さんは一年先輩、白井倉三さんは一年下、佐藤さんは五年生で、入試の時につれて行って頂いた。厚木中学第18回卒業。校長は創立以来、ずっと勤務された大矢八十八先生へん厳格な方だった。学校のある

問題がありました。

居合わせた大人五人とも読めず、広辞苑で「ココロフト」を引いたら「トコロテン」とわかりました。その後、トコロテンがなぜ心太り、俗に「心太」の字があてられた。このココロは、コル・コゴル（擬）こと。フトとは「餅に類する食品」のことだと言われる。つまりココロフトとは「ごり固まった餅」という意味なのである。

室町時代以前では、まだココロフトであったが、室町になってくるほどだった。

（4）日常生活
だいたい自給自足でまにあつたが、魚は南湖からごんさん（坪田権太郎さん）が、天秤でかついで行商にきた。肉は食べなかつた。

一月二日は親戚の年始会を行なつた。また商売始めで、初荷の轎を立てて荷車に積んで行つた。

（3）酒造をはじめたのは
明治八年十月、私より四代前の茂平さんが創業した。当時はこの家でも、どぶろくを作つていたが、明治八年に酒造税が創設されたので、みなやめてしまい、私の家だけが残つた。

初めの銘柄は放光。大正九年、中学二年の頃、海岸で日の出を見た。すばらしい曙光の輝きに感動。同じ光だが曙光には未来があり、希望がもてるように考えられ、父に進言。「よかろう」といわれ、法的手続きをして曙光が登録商標になった。

香川駅の近くに松葉屋という料理屋があり（現在熊沢一三さん、山田久満さん宅）、熊沢藤俊さんの伯母ナオさんがやっていた。こ

こでも曙光が使われ評判がよく、生産組合員や消防団員の会合、若者の憩いの場としてにぎわい繁昌して、近郷の人たちも集まつてく

もその名が見えるところから、奈良時代以前からあつたことは確かだ。その頃はこの食物をさす名は特になつたが、平安時代になつて「古々呂布太」と呼ぶようになつた。俗に「心太」の字があてられた。このココロは、コル・コゴル（擬）こと。フトとは「餅に類する食品」のことだと言われる。つまりココロフトとは「ごり固まった餅」という意味なのである。

室町時代以前では、まだココロフトであったが、室町になってくるほどだった。

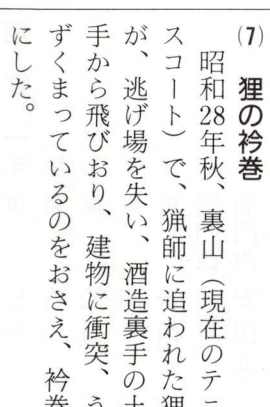
（6）戦争に関する思い出
陸軍将校数名が、10数名の付添をつれて来た。戦争末期のため、相模湾敵前上陸に備え、将校が会議のために来たのだつた。平塚空襲の一ヶ月前、平塚海軍火薬廠から青年将校が来て、空襲に備えて千俵の米を預かつてほしいといふので預かつたが、半月後に空襲があり、この米は米軍に引き継ぎ、配給米として役立った。

昭和50年にこの将校がひよっこり訪ねて来て、当時の思い出話をした。この方は現在神奈中社長の青山茂さんである。スイミングクラブやテニスクラブを造る時に来て下さり、ずっと懇意にしている。

8月15日に終戦となり、8月25日にマッカーサー元帥が厚木飛行場へ来ることになった。私宅に泊まつた陸軍将校の一部が、マッカーサー飛来阻止をはかつたので、不安だつたが、事前に発覚し、事もなく終り、ほつとした。

（7）狸の衾巻
昭和28年秋、裏山（現在のテニスコート）で、猟師に追われた狸が、逃げ場を失い、酒造裏手の土手から飛びおり、建物に衝突、うづくまつているのをおさえ、衾巻にした。

大正12年9月1日、昼食後、二階にいた時に地震があつた。柱につかまつていたが、西の窓をあけたら酒蔵がつぶれ、蔵もつぶれていた。30石の桶に貯蔵していた600石（900ℓ）の酒が、上下動でくつ石の上へ落ちたので、底が抜け、こぼれて前の畑に流れ、堀や道に流れていった。毎年さつま芋や麦を作つたが、つるばかり伸びたり木ばかりほぎて、収穫はゼロだつた。こんなことが数年続いた。



衾巻きになった狸

さーくる紹介

そよかぜ 童謡と唱歌をうたう会



「そよかぜ」の人たち

明るく優しく、幸せな気分が季節感を味わいながら歌っている会です。童謡と唱歌は誰でも知っています。誰の心にも通じる感情の歌です。子供のころの思い出に浸りながら歌い、温かい歌声になるように心がけています。国末澄子先生のご指導は、とても楽しい雰囲気です。盛りだててくださいます。時には厳しいご指導も受けます。なかなか先生のご期待に添えないのですが、頑張っています。

張っています。会ができて三年目になります。会の仲間とのつながりが深まり地域でのふれあいが広がりました。毎月一度、下寺尾のカトレアホームを訪問し歌っています。ホームの皆さんと一緒に合唱もします。昨年は香川のサークル「ニコニコクラブ」で歌い、敬老の日には甘沼の敬老会でも歌いました。来年は手作りの音楽会「童謡と唱歌のミニコンサート」を実現させたいと計画中です。童謡と唱歌をうたうことが好きな方の入会をお待ちしています。連絡先 Tel 五二一〇六一一 原田信子

金賞のポスター



2年 足立美弥子 たげこ 空きかんの 投げ捨ては、やめよう



6年 藤井有記 自然を大切に 表彰者の記念写真を希望する人は、TEL 52-7422 伊東までご連絡下さい。サービズ版 20円 L版 100円です。

環境整備ポスター展開催

恒例の自治会主催第九回環境整備ポスター・作文展が開催されました。ポスター二二二点、作文四二点、標語二二二点と昨年を大幅に上回る成績で、中でもポスターにはなかなかの力作もあり好評。作文は二点の応募しかなく盛り上りにかけ残念でした。次回の応募を期待いたします。なお表彰式は八月三十日自治会館で行われ自治会長から賞状と賞品が贈られました。

ポスター展入賞者

金賞	二年	原東	足立美弥子
銀賞	三年	仲通り	坪川奈未
銅賞	六年	間門西	藤井有記
銅賞	二年	間門西	斉藤宗之
銅賞	六年	東	杉野恵津子
銅賞	五年	間門	日浦田沙絵
銅賞	六年	間門	葛西朗子
銅賞	二年	間門	広瀬あや
銅賞	四年	間門	杉山早苗

銀賞	三年	仲通り	田中由紀子
銅賞	五年	仲通り	三橋裕子
銅賞	六年	間門西	安田嘉春
銅賞	六年	仲通り	田中絵里子
銅賞	三年	原西	蜷川かつら
銅賞	四年	間門	熊沢祥子
銅賞	四年	間門	角真衣子
銅賞	六年	間門	角亜希子
銅賞	五年	間門	柴田真由子

図書館

だより

新刊書の紹介

- ◎風を聴く木 大原富枝
- ◎和の雑貨 小山 織
- ◎これだけは見たい 日本テレビ
- ◎日本の美術館88 日本テレビ
- ◎牛乳パックでつくる 木内 勝
- ◎あきらめない人生 瀬戸内寂聴
- ◎おいしい人間 高峰秀子
- ◎ちよとまつてすてないで 無駄なし料理 プレティック社
- ◎奈良のかくれ寺 大石真人
- ◎たのしいこっこき 塚本馨三
- ◎サーちゃんの庭で 森田 文

杳沢みや

子と吊りし蚊帳つり草のゆがみけり 蚊帳吊草を使ったむかしからの遊びを、お子さんに教えている風景が好ましい。蚊帳つり草の蚊帳はゆがんで了った。お子さんはもう本物の蚊帳を知らないであろう。新松子女神のような雲の出で 藤井謙昌

藤井謙昌

諸鳥の遠き近きを霧の湖 朝のはやい鳥たちの声が、あちこちから聞えてくるが、霧ごめの湖はまだ霧をおいたままで、活力に満ちた一日になる前のひとときか。 朝霧のまだおりてをり湖の面を おいて孔雀の鳴けり秋暑し 姿に似ず孔雀の鳴き声は美し

俗百合子

間を似ず孔雀の鳴き声は美し 姿に似ず孔雀の鳴き声は美し

俳句 茅花会

平塚司郎選

くない。放ち飼にされてる孔雀の姿の量感が、秋暑と呼応している。 夕かなかな蹠に猫すり寄れる 紫陽花の毬揺れてあるかくれんぼ 河村ひろし

かくれんぼのかくれている時の心持ちは今思い出してもわくわくする。すっかり隠れたつもりだが、時々紫陽花の毬の揺れで見つけられそうなのを作者ははらはらして見ているのだろう。

梅雨空に連想があり智恵子抄

藤村球子

新涼の旅の枕をうらがえす 触れ合へる影や夕日の女郎花 長島久江 軽やかな午報のチャイム終戦日 法師蟬昼は一人の日のつづく 青木貴子 小きき手をかざして真似る盆踊り 夕暮れのやぐらの囲り水を打つ 田辺美津枝 窓越しに人の往来秋暑し 水澄みて小石の間の魚の影 杳沢幸子 遠花火病の母の傍にゐて 客帰り部屋の静けさ盆終はる 選者吟

涼しさの大竹藪をいくぐり



喜びの受賞者たち

銅賞

銅賞	一年	東	松原ユカ
銅賞	二年	東	吉田てつ
銅賞	三年	東	松原 俊
銅賞	五年	東	田上くみ子
銅賞	五年	東	吉田 健
銅賞	三年	間門西	熊倉ひとみ
銅賞	二年	間門西	安田恭行
銅賞	五年	間門西	藤井綾記
銅賞	二年	間門西	小沢ひかり
銅賞	五年	間門西	松尾博美
銅賞	六年	間門	脇 大輔
銅賞	三年	間門	川島裕二
銅賞	四年	間門	大野亜矢子
銅賞	一年	北	増田亜也
銅賞	三年	北	河崎 淳
銅賞	二年	原西	田中啓太
銅賞	二年	仲通り	坪川正樹
銅賞	三年	仲通り	島津 悠
銅賞	四年	仲通り	熊沢幸司
銅賞	一年	仲通り	石澤里実
銅賞	五年	仲通り	島津典子
銅賞	六年	仲通り	木内 梓
銅賞	五年	仲通り	兼子朝美
銅賞	四年	仲通り	二木愛美
銅賞	二年	仲通り	近藤英明
銅賞	二年	原西	叶 拓也
銅賞	三年	北	青柳真世
銅賞	二年	間門	熊沢咲耶
銅賞	五年	間門	島田裕子
銅賞	四年	間門	小松寿美子
銅賞	四才	原東	青野恵慈
銅賞	一年	原東	増山敬一
銅賞	二年	間門西	小西正徳
銅賞	五年	北	青柳知亜希

作文入賞者

銅賞	五年	仲通り	島津典子
銅賞	一年	仲通り	大塚裕子

標語入賞者

銅賞	五年	間門	日浦田沙絵
銅賞	五年	間門	柴田真由子